

I 特別支援教育・学級理解

②「障がい」「障がい者」理解を促す取組《授業》

☆題材名「障害のある長男、周囲は温かい目を」

- 目標
- ・障がいのある人にとって、周りの無理解や偏見が生きにくさを生むことを知る。
 - ・障がいのある人への温かいまなざしについて考える。

	活 動	留 意 点
導 入	1 「障がい」という言葉は、どういう場面で使われているだろう。	物や環境、人の状態に使われていることを確認する。
展 開	2 「障がい者」にとっての障がいとは何だろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">障がいがある人の生きにくさについて考えよう</div> 3 記事を読む。 <ul style="list-style-type: none">・当事者や母親の気持ちに思いを巡らせ、生きる上で障がいになっているのは何かを考える。・このような場面で自分はどうか対処すればいいのだろうか考える。	障がい者にとって、医学モデルでの障がいからくる生きにくさや困難さはもちろんのこと、社会モデルでの障壁が生きにくさや困難さを増幅していることに気付く。
ま と め	4 本時のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none">・障がいがある人への自分自身のまなざしについて考える。	障がいがある人への正しい理解、接し方、思いやりについて考える。

〈資料〉

障害のある長男、周囲は温かい目を

長男（19）と八代市の衣料品店に行った時のことです。長男は知的障害があり、人に駆け寄りたつたりするので、外出時は迷惑にならないように車いすに乗せ、バンドで体をとめています。しかし、その日はレジの所で興奮した長男が声を上げ、手足をばたつかせました。すると近くにいた70代ぐらいの女性が「怖い怖い」と言って、その場を立ち去ったんです。親としてとてもショックでした。長男に少しでも外を見せてあげようと、周囲に配慮して外出しています。もっと温かい目で見てもらえればと思います。

出典：熊本日日新聞 平成27年7月28日